

架け橋だより

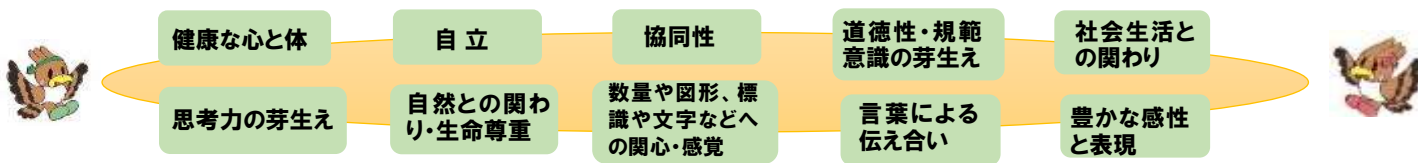


せいろう幼稚園「5歳児架け橋期研究保育協議会」

11月11日(火)町立せいろう幼稚園において、5歳児架け橋期研究保育協議会を開催しました。活動の様子を撮影した動画を視聴し、『目的に向かって自ら考え活動を進めていく子どもの姿は、小学校へどうつながっていくか』という協議会テーマに基づき、園だけではなく小・中学校の職員、近隣市町村の職員も参加して話し合いを行いました。また、新潟大学教職大学院の中島伸子教授を指導者に招き、実践と理論とを結び付けたご指導をしていただきました。町内の学校園職員はもとより、町外から参加した職員にとっても有意義な学びの会となりました。



幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (この姿を共通の視点として話し合った)



目的に向かって自ら考え、活動を進めていく子どもの姿



『チームで相談して物語を選び立体装飾を作ろう』

【思いを伝え合う力】

- 自分の思いを伝える
 - 相手の思いを聞く
 - ・提案する
 - ・思いやる
 - ・共感する
- 〈折り合いをつける〉

【共通の目的】

- イメージ・目的を共有
 - 役割分担をする
 - 協力して設計図・作品作り
- 〈目的が明確なので自分たちで動く〉

【教師の支え】

- *個々の思いや考えを認めながらイメージを整理し、共通のものに。
- *子どもに親しみのある題材(絵本)を選定し、イメージを共有しやすく。

小学校へのつながり



【考えを伝え合う力】【共通の目的】

- ペア活動・グループ活動
- 縦割り班活動
- 生活科・図画工作
- 学級活動・お楽しみ会
- 係活動
- 生活全般

〈自分たちの意見に折り合いをつけてまとめていく〉

〈目的に向かって協力して活動する〉

～新潟大学教職大学院 中島伸子教授より～

目の前の子どもの声を聴き、最大限に尊重する『子ども理解』が大切

- ・子どもがどんなことに興味をもっているか、どんなことに楽しさを感じているか。
- ・子どもの“やってみよう！”という気持ちを引き出すために必要な援助と環境構成は。
- ・表情や仕草、行動など、言葉での表し方以外でどんな表現をしているか。

★『一人一人の子どもたちをしっかりと見とる』ことが“育ちと学び”につながる。

★園と小学校の職員が、共通の子ども姿を見て一緒に考えていくことが“円滑な接続”となる。



9/18 『聖籠町架け橋期カリキュラム検討委員会』

各園の5歳児担任・幼児部主幹、各小学校の1年生主任等が集まり、園と小学校の学びのつながりについて話し合いを行いました。町の目指す子ども像である『友達と同じ目的をもち、一人一人が力を発揮し自信をもって主体的に行動する』姿が発揮されている活動写真を持ち寄り、学区ごとに分かれて園小の学びの連続性について確認し合いました。



11/8 『架け橋期子育てフォーラム』

～子育ての視点をアップデートしてみませんか～



町民会館において、中島崇幼児教育センター長を講師に、『架け橋期子育てフォーラム』を開催しました。意見を出し合いながら参加者同士が交流を図り、和やかな会となりました。

子どものできないことを指摘する「否定的な言葉」を、努力や工夫を認める「肯定的な言葉」に置き換えることで子どもを見る視点が変わり、子どもの自信を支える力につながっていくことを、確認し合うことができました。



参加者の感想



見方の幅が広がり、心が柔軟になった。参加して良かった。

架け橋期コーディネータ、
の願い

～幼児期から小学校への接続に向けて育てたい力～

【基本的な生活習慣を身につけ、自分のことは自分でやろうとする力】

- ・「あいさつ」や「返事」はコミュニケーションの第一歩です。大人が手本となり、率先して取り組みましょう。
- ・集団生活では、自分のことは自分で行い、ルールや決まりを守って生活していきます。「待つ」「がまんする」「気持ちを切り替える」という経験を通して『自己コントロール力』を育てていきましょう。

【自分の思いや考えを伝え互いの良さを認め合い、友達と協力する力】

- ・『ふわふわ言葉』を大人が積極的に使い、「互いの良さ探し」を通じて心の満足感を得させながら『かかわる力』を伸ばしていきましょう。

【興味・関心をもったことに進んで取り組み、試したり考えたりしながら「わかった」「できた」という達成感を味わう力】

- ・様々な経験や遊びを通して試行錯誤することが、学習での意欲や理解につながります。

